

令和6年度 幼保小連携推進地区事業 西富岡地区活動報告



西富岡地区
西富岡小学校 京急幼稚園 きらら保育園

◆西富岡地区推進テーマ

子どもの育ちと学びをつなぐ交流と連携

～幼保の「学び」を生かしたカリキュラム・マネジメント～

●テーマ設定理由と期待する効果

幼稚園・保育園から小学校に入学する子どもたちにとって、小学校は新しい未知な環境となる。スタートカリキュラムを教育課程に位置付け、幼稚園・保育園から小学校へのなめらかな接続を図る手立ての一つとする。また、幼保小職員間の交流をさらに深め、幼保の学びを生かした学校生活にしていきたい。

○幼保小互いに実践を知り、教職員が相互に授業や保育を行う

○年長児と1年生が交流することで自己有用感を育む

○他者に対する理解や思いやりを育て、豊かな情操を育む

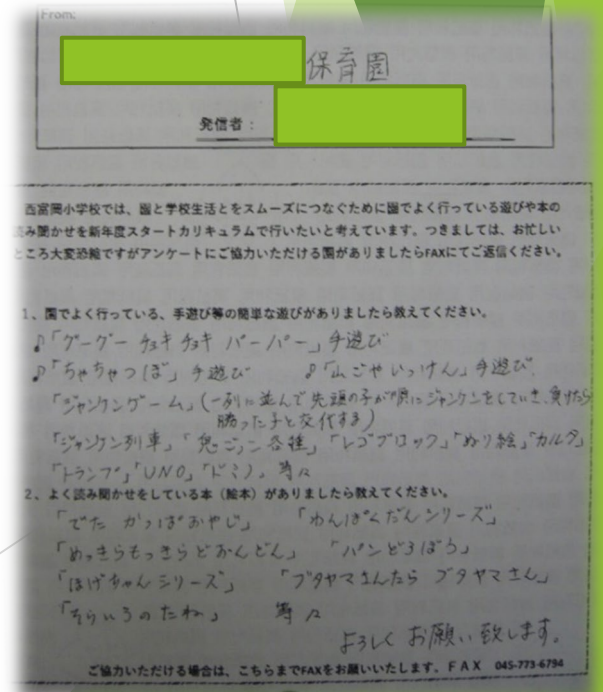
◆幼保のなめらかな接続を図る スタートカリキュラムの充実

- ▶ 本校では1年生の4~6月にかけて、スタートカリキュラムに取り組んでいる。
- ▶ 子どもたちの出身園にアンケート調査をし、園で経験していた手遊びや本の読み聞かせ、ダンスなどを取り入れた。
- ▶ 子どもたちは、「これわかるよ」

「やったことある」など自信をもって
取り組む姿が見られた。



安心感=主体的な活動



◆1年目の成果と課題

- ▶ スタートカリキュラムではそれぞれの園での経験を共有することで、幼保のなめらかな接続を図ることができた。
- ▶ 教職員が授業や運動会の参観、研修会などを通して、情報交換したり、互いの教育環境、活動を理解した。
- ▶ 「読み聞かせ」という幼保小共通で行っている活動の研修を行い、接続期カリキュラムの参考にすることができた。
- ▶ 架け橋期のカリキュラムについて考えていく必要がある。

◆子どもの安心感と主体性を大切にした スタートカリキュラムの充実

- ▶ なかよしタイムでは、園と同じような環境構成に留意した。
- ▶ ランドセルを置いたら、自由に遊ぶ場と時間を保障した。
- ▶ 園の先生方に小学校に来ていただき、読み聞かせを行っていただいた。



◆子どもの安心感と主体性を大切にした スタートカリキュラムの充実



●読み聞かせをしていただいた園の先生より

入学後の子どもたちの姿を見ることができて、たった1か月ですが、成長を感じ嬉しく思いました。また、**変わらない様子も見られ、安心するとともに情報共有もできたのでとてもよい時間を過ごすことができました。**

ゲーム、手遊びともによく話を聞いて参加してくれ、笑顔が見られて安心しました。読み聞かせも最後まで集中して見てくれたため読みやすかったです。また、休み時間に他学年の子とも触れ合うことができ、**一人ひとりの成長を見ることができて**とても有意義な時間となりました。

◆2年目の成果と課題

- ▶ 子どもの安心感と主体性を大切にしたスタートカリキュラムの充実
- ▶ 年長から1年生までの2年間をつなぐ架け橋プログラムについての理解を深める
- ▶ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとした架け橋期の指導を考える

◆3年目に向けて

▶ 子ども観を共有した架け橋期の指導の具現化

○年長から1年生までの2年間をつなぐ

架け橋プログラムについて職員の理解を深める

○子どもの安心感と主体性を大切にした、

架け橋プログラムの試行・作成

◆子ども観を共有した架け橋期の指導の具現化

▶ 職員研修①

きらら保育園への小学校職員の保育参加



◆子ども観を共有した架け橋期の指導の具現化

●研修に参加した職員より



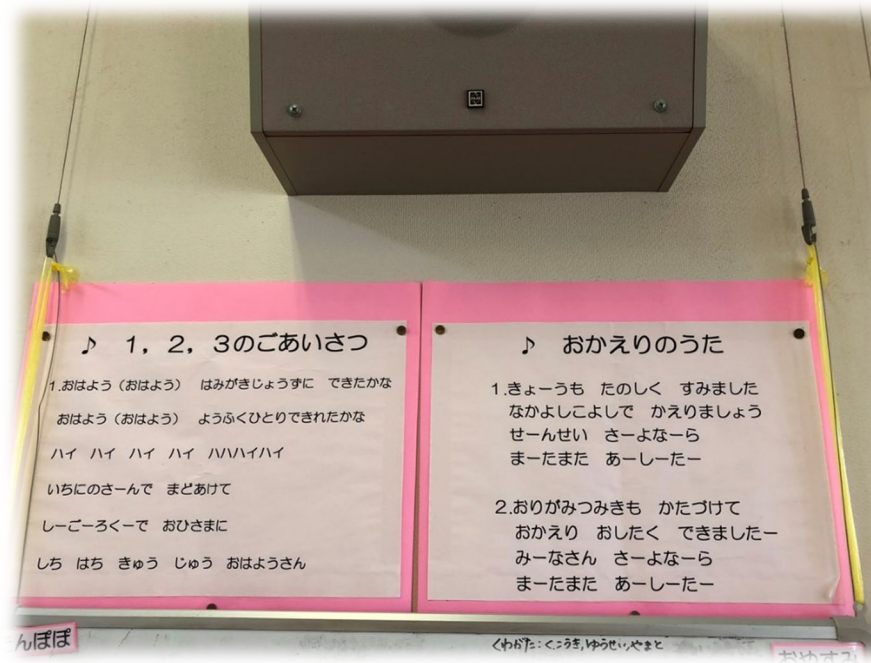
子どもの「やりたい」という気持ちを引き出し、実現させるための様々な教具を見せていただくことができ、**小学校に来るまでに、こんなにも多くのことを学んで来ているのかとおどろいた。**どの段階においても、子どもたちがやりたいことをできるような環境や、やりたいと思わせる仕掛けが大切だということが分かった。

きらら保育園との交流を通して、園での学びは小学校教育にちゃんと接続しているのだなとより感じました。低学年での学びが園での学びと繋がっているのは日々の学級経営の中で感じていましたが、実際に施設の中を見させて頂くと**どの学年の学びにも通ずる様々な教材教具がありました。**それらの説明を聞く中で高学年の学習につながるような遊びを通した学習をしていたり、視覚的に分かりやすいように工夫された教材があったりしました。

◆子ども観を共有した架け橋期の指導の具現化

京急幼稚園の施設見学

年少、年中、年長と比較してみると、どの教室も自分でできることを増やすための環境設定となっていることがよくわかりました。



◆子ども観を共有した架け橋期の指導の具現化

▶職員研修②

くりかえし くりかえして遊ぼう

～くりかえしのあるお話の読み聞かせの楽しみ方～

東京都荒川区教育委員会学校図書館支援室の阿部ひろみ先生をお招きして、読み聞かせに関する幼保小の職員研修を行った。

研修では、絵本や読み聞かせが子どもの成長にどのような役割を担うのかを学んだ。研修の最後には、講師の阿部先生に読み聞かせを実演していただき、読み聞かせの魅力にたっぷり浸ることができた。



◆子ども観を共有した架け橋期の指導の具現化

●研修に参加した職員より

発達段階に関わらず、今の子どもたちは音声言語だけで情報を得ることが難しいこと、繰り返し伝えることなど、理由と伝え方を知ることができたので、今後大切な話をする際は普段話するときとは違う、**小さな声で繰り返し伝える工夫を取り入れて子どもの注目を集めて話していこう**と思いました。

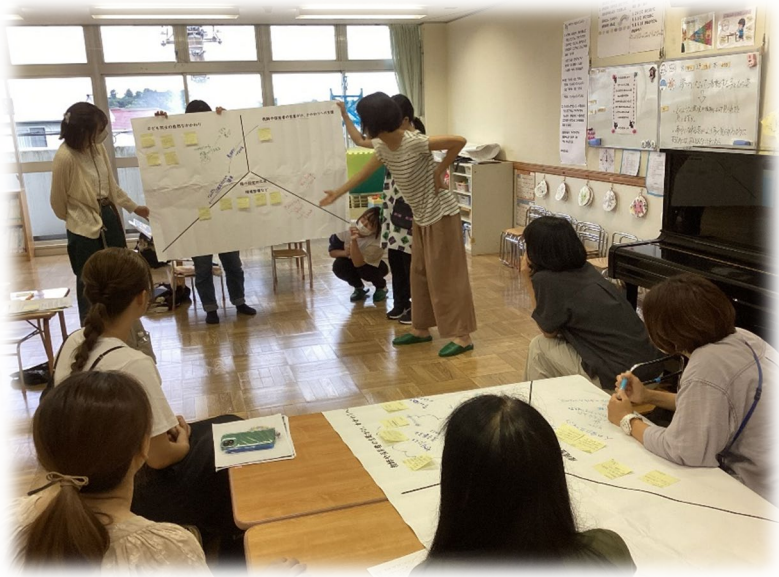
普段の保育で、「さっき言ったのに。話聞いていたかな？」と思う場面が私にもあります。子どもだけでなく、自分の話し方や注目の集め方にも課題があるとふり返ることができました。私もつい大きな声で話してしまうので、話す速さや声の大きさ、トーンを工夫してみたいと思います。夏休み後の保育に期待がもてました。



◆架け橋プログラムについての理解を深める

5歳児から小1までの2年間

→生涯にわたる学びや生活の基盤を作るために重要な時期



金沢区第2ブロック研修会より



◆架け橋プログラムの試行・作成

★これまでの園の経験の中で、子どもたちがたくさんの知識や技能を獲得（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）をしていることを理解する。

★「好きなこと」「得意なこと」を生かして力を発揮してほしい

【子どもの具体の姿】

幼稚園・保育園で日々の生活の中で培ってきた力を、
自信をもって発揮して学び続ける子

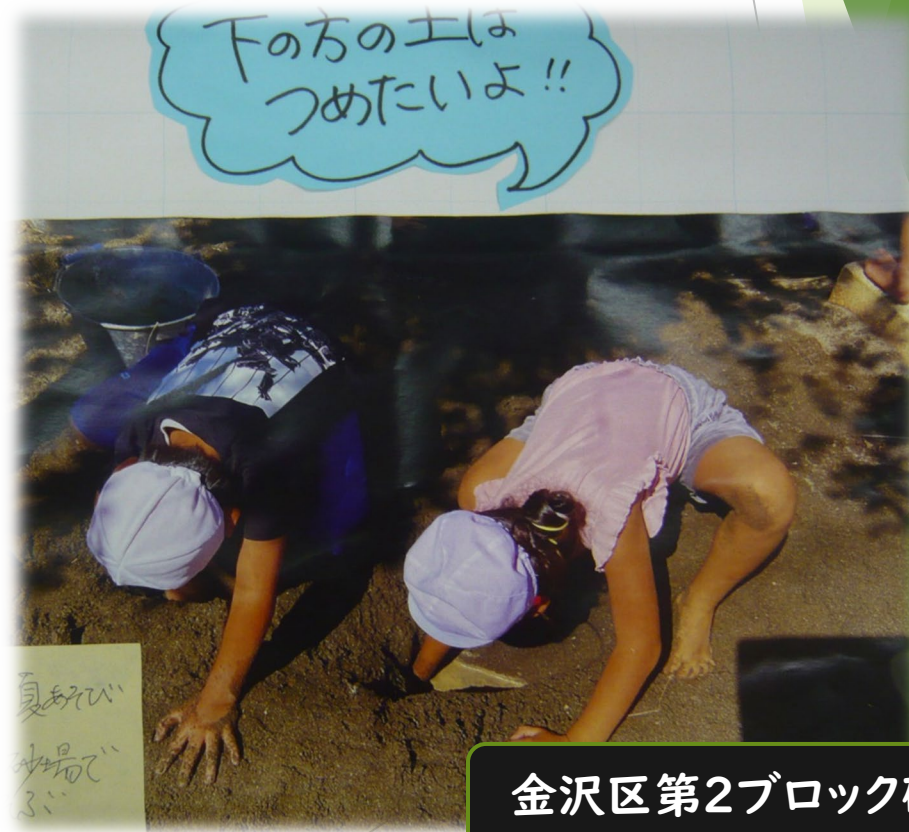
◆架け橋プログラムの試行・作成

★環境設定・場の工夫

子どもが全身を使って材とかかわる姿



園での「砂遊び」の経験が、
生活科の「夏の遊び」に
つながった。

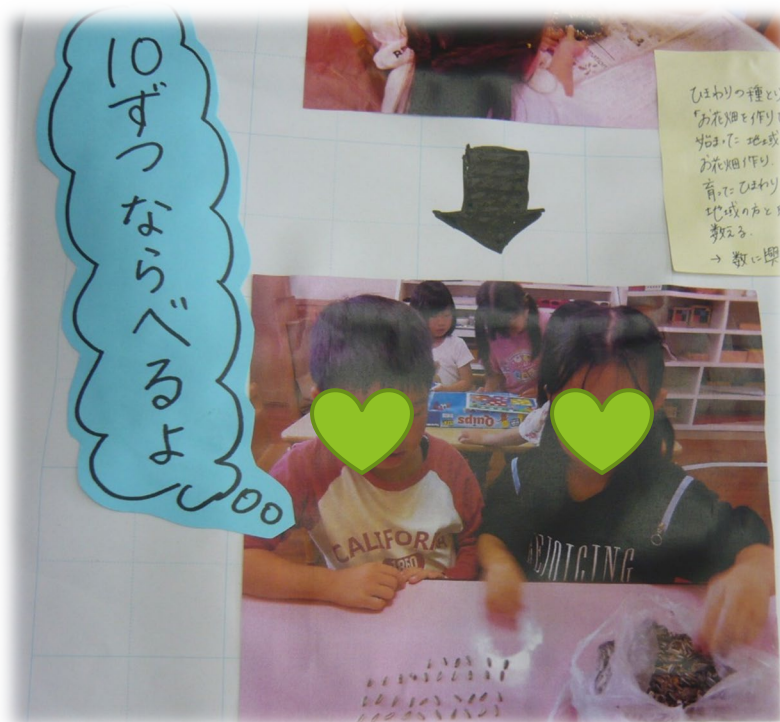


金沢区第2ブロック研修報告より

◆架け橋プログラムの試行・作成

★環境設定・場の工夫

実体験を教科の学びに生かす姿



園での「数える」の経験が、算数の「水のかさ」の学習、どっちがどれだけ多いのか、ますを用いて比べることにつながった。

金沢区第2ブロック研修会より

◆架け橋プログラムの作成

★子どもどうしの自然なかかわり

園で虫とたくさん関わることで、生活科で「虫取り名人」や「虫博士」として活躍する姿が見られた。

ひとりの「すき」がみんなの「すき」に広がる姿



金沢区第2ブロック研修会より

◆架け橋プログラムの作成

★教師・保育者の言葉かけや支援

こうしたらどうかな、みんなでやってみるとおもしろいかも、。園でも、学校でも子どものつぶやきをひろい、全体化することで活動がダイナミックに発展していった。

子どものつぶやきから活動が発展する姿



金沢区第2ブロック研修会より

◆これまでの成果と課題

- ▶ 職員交流や研修を通して、**子ども観**について、互いに共通理解を図ることができた。
- ▶ 架け橋プログラムについては、子どもの具体の姿を通して指導の実際を共有することができた。
- ▶ 架け橋プログラムはまだ試行の段階である。
園、学校それぞれが、これまでの実践を共有しながら、よりよいものにしていく必要がある。